第二部

これからの挑戦

日常使い

1F フレキシブル・ホール

まちと連続した日常的な市民の居場所

▲ホールA　日常利用時のイメージ（視点:①）

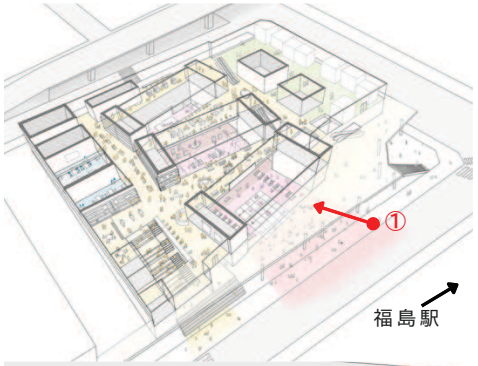
▲ホールA～C　イベント時のイメージ（視点:①）

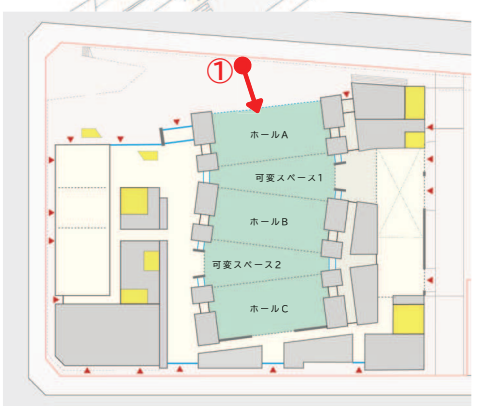
ポイント

- 事業費削減のため舞台設備などの一部機能は見直す。
- ホール面積や分割利用の考え方などに変更はなし。
- 特産品やブランド品などの買い物は、トレンドを踏まえた物販会や物産フェアなどのイベントとして企画を検討。

イメージ図	利用パターン	面積（収容人数）
	可変スペース単体（展示利用等）	210㎡
	ホール（1区画）	360㎡（300人）
	ホール（1区画+可変スペース）	570㎡（400人）
	ホール（1区画+可変スペースx2）	780㎡（500人）
	ホール（2区画+可変スペース）	930㎡（750人）
	ホール（2区画+可変スペースx2）	1140㎡（1000人）
	ホール（全体利用）	1500㎡（1500人）

▲約1,500㎡で7パターンの分割利用が可能（25/7全員協議会資料より再掲）



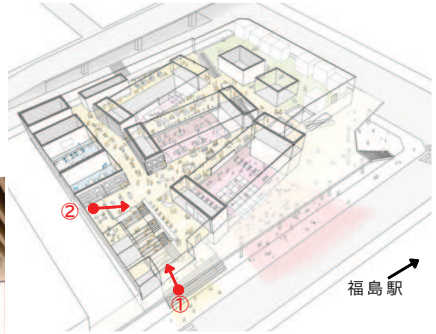


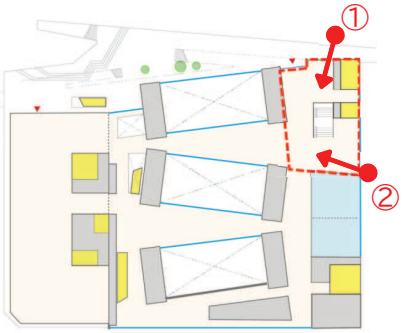
1F・M2F・2F まちなかリビング・小会議室・中会議室

賑やかな交流と滞在の場

▲1F まちなかリビングのイメージ（視点：①）

▲2F まちなかリビングのイメージ（視点：②）



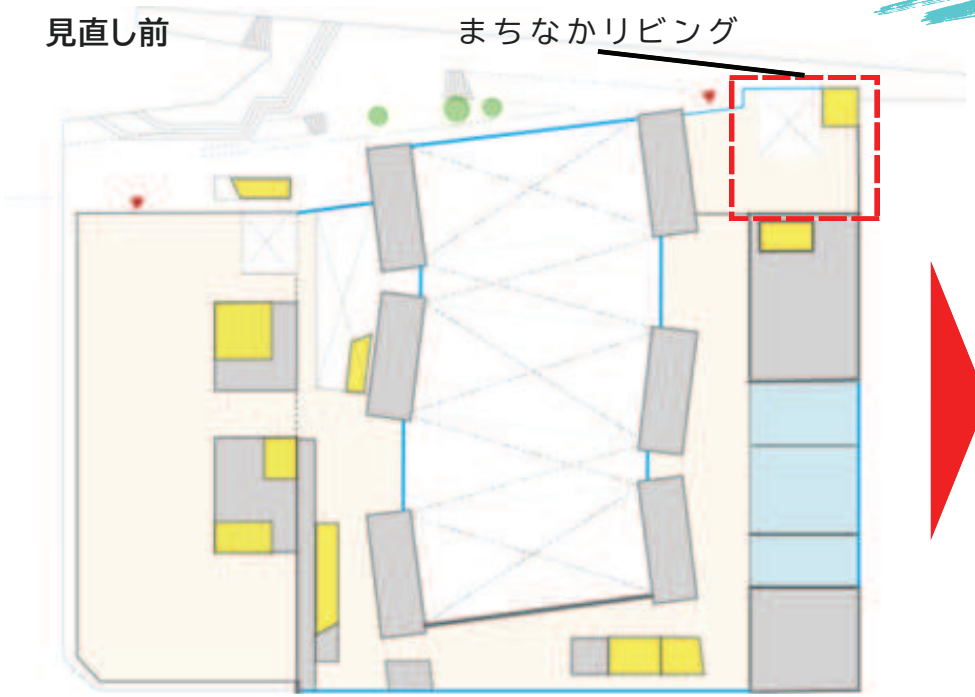


ポイント

●座れる大階段を設け、気軽に滞在したり、交流したり、発信したりできる場をつくる。
●くつろぐ、学ぶ、展示に触れるなど、思い思いに過ごせる場を用意。ヒト・モノ・コトがゆるやかにつながる空間として計画。

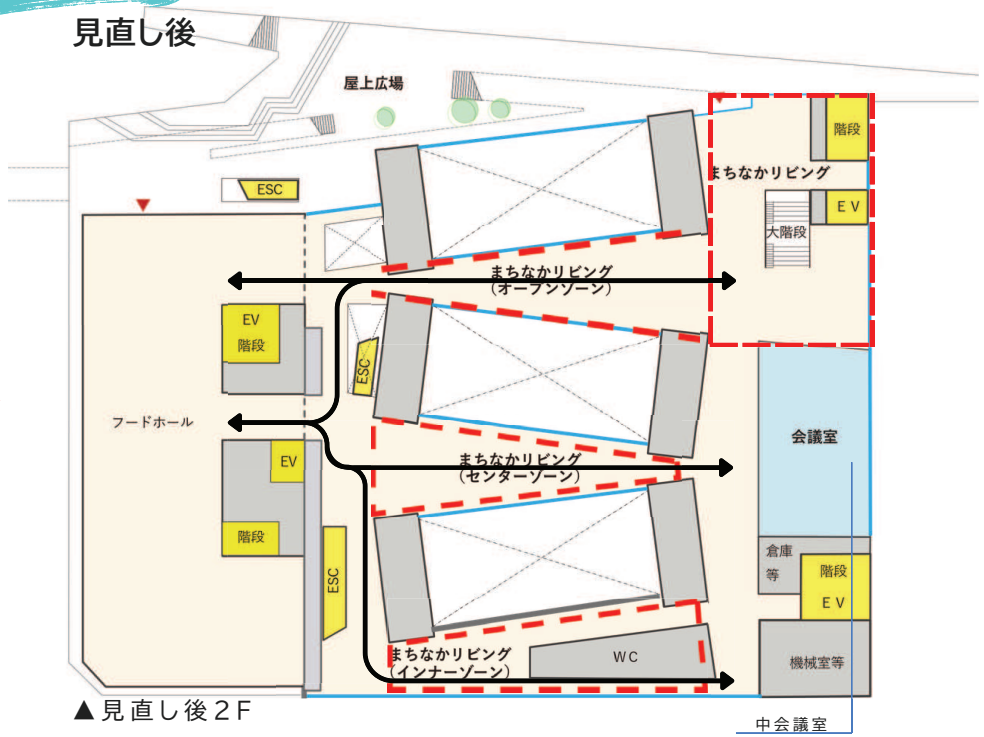
2F まちなかリビング・中会議室

見直し前



▲見直し前2F

見直し後



▲見直し後2F

変更点

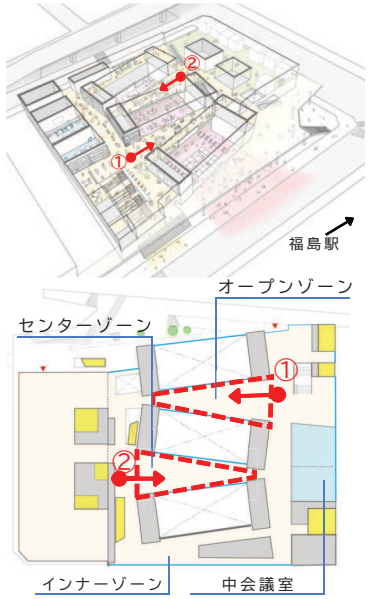
●2Fを中心にまちなかリビングの空間を拡張。
●市民の日常利用スペースの強化と、民間エリアとの回遊性を向上。

2F まちなかリビング・中会議室

“知る”・“試す”・“見てもらう”ができる場所

▲拡張したまちなかリビングの日常イメージ
（視点：①オープンゾーン）

▲拡張したまちなかリビングの日常イメージ
（視点：②センターゾーン）



ポイント

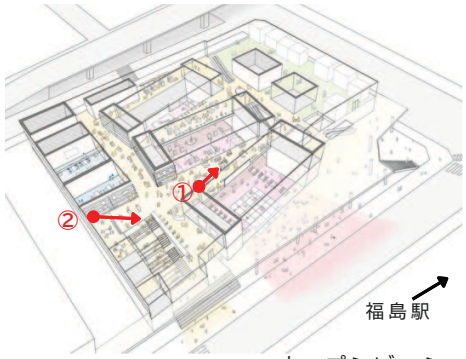
- ●文化・学びの場や展示などのコンテンツを用意し、日常的に滞在できる空間へ。
- ●中会議室は、工作や映像制作など、興味をもったことを試せる場としての活用も想定。
- ●民間エリア（フードホールやSHARE LOUNGE©など）の商業機能と連動可能。

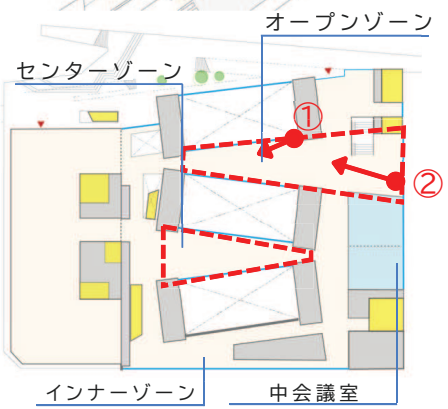
2F　まちなかリビング

バンケット会場にも変化

▲まちなかリビングのバンケット利用イメージ
（視点：①）

▲まちなかリビングのバンケット利用イメージ
（視点：②）



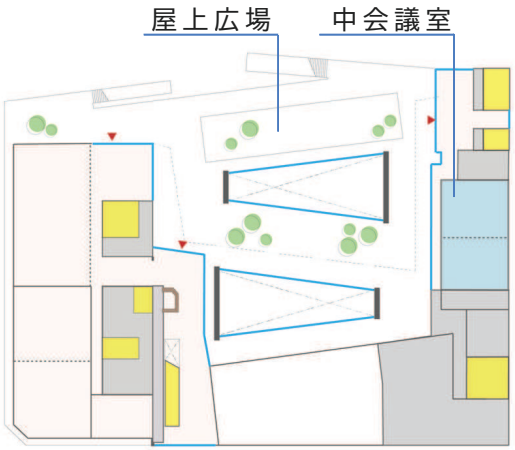


変更点

- ●バンケット機能は前計画の大会議室から、拡張したまちなかリビングにて実施できるよう設計し直すことで、費用を削減しながら、機能は維持。
- ●見直し前の時点で想定していた1Fホールのバンケット利用も引き続き可能。

3F 屋上広場・中会議室

自然を感じながら、体験が得られる場



ポイント

●「屋外であること」「広いこと」を活かして、ここならではの体験。
●青空の下でヨガをしたり、気分を変えて屋外で働いてみたり、オフィスワーカーの知的生産性向上、チームビルディング、健康促進に寄与する屋外交流スペース。

民間エリア

公共－民間エリア間の連結による回遊性・にぎわいの創出

1F カフェ・物販など

カフェや物販店舗を検討。
物産フェアやブランド催事などの体験型イベントはホールと連携しつつ不定期での開催を検討。
テナントは今後誘致活動を行う予定。

2F フードホール

老若男女がそれぞれの好きなグルメを同じテーブルで楽しめる、
体験型フードホール。
㈱USEN Propertiesと企画中。

3F SHARE LOUNGE

ラウンジの居心地と本による提案、
オフィスの機能性を兼ね備え、
訪れた人に新しい発想を提供する場所。
カルチュア・コンビニエンス・クラブ㈱と企画中。

4F 医療モール

5～10F オフィス

※別棟にて約500台の
立体駐車場も計画。

公共エリアと空間的に連続。連携して施設全体のにぎわいを創出。

画像はイメージです。
今後の検討により変更となる可能性があります。